

麻布幼稚園だより 5月号

平成28年4月28日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「『平常どおり』のありがたさ・大切さ」

園長 大島 美知代

皆さんも報道でご存知のように、4月14日に起こった大きな地震のニュースは日本中を駆け巡りました。我が家でもちょうどTVでニュースを見ていた時でした。私も思わず、「えっ震度7。大変！」と叫んでいました。その後、毎日揺れる大地、崩れる家、倒れる信号、大きくひび割れる田畑や道路、動かなくなる鉄道、落ちてなくなっている橋、土砂崩れなどを見るにつけ、心が痛くなります。

本園でもちょうど20日に避難訓練があり、4歳児、5歳児は真剣に訓練に取り組んでいました。初めてかぶる子どもたちもいた上に、久しぶりにかぶる防災ヘルメットに不慣れな様子が見えました。子どもたちに「熊本地震」のことを話すと、各家庭でニュースを見て知っている子がほとんどだったようです。担任の先生はその後すぐに保育室を点検しました。ピアノの上、棚の上に教材等を乗せてないかどうか、また、万が一、揺れて教材、遊具が落ちて子どもたちの怪我につながったり、逃げ道をふさいだりしないか、ピアノは動かないようになっているが、集合時にピアノを避けて集合させているかどうか、子どもたちはいつも上履きをはいて生活しているか、などを再点検、確認をしました。

私は「『平常どおり』のありがたさ」を感じています。平常どおりに電気もガスも水道も使えて、道路を通って幼稚園に来て遊ぶことができる、いつもの日常が平常どおりに動いていることがどんなにありがたいことか、と感じずにはいられません。この「平常」こそ、とても大切なものと痛感しています。

そして「『平常どおり』の大切さ」とは、いつ、どんなことがあっても落ち着いていつも通りに行動できること、いつも平常と同じように行動できること、これは子どもだけでなく私たち大人にも大切なことです。子どもにはどんな時も保護者や周囲の大人の言うことを聞くことができ、言われたことをよく聞いて行動できるように育てていきたいです。幼稚園でも集団生活の決まりを守り、教師を信頼し、教師の指示を聞いて動くことができる、落ち着いて行動することができるなどの姿を目標に指導を重ねていかなくはなりません。そして心も体もいつも健康に保てるようにしていきたいです。

熊本、大分の子どもたちは幼稚園に行って遊ぶこともできないでいることでしょう。いつまで揺れは続くのでしょうか。心を強くもって復興してほしいと心から願っています。

今年度の園内研究会・アカデミー研究会の紹介

園内研究テーマ:「心も体も弾み、生き生きと活動する幼児の育成—運動的な遊びを通して—」

本園では、入園、進級後の子どもたちの運動面の実態を把握しています。園内で様々な遊びの中で運動的な遊びを取り入れたり、生活の中で多様な動きを経験させたりして、心身共にたくましく、生き生きと活動する幼児を育てたいと考え、教材や環境構成、教師の指導、保護者との連携について事例をとり、研究を進めていきたいと考えています。

六本木アカデミーの研究テーマ:「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」

2園(南山・麻布)3小学校(南山・麻布・東町)1中学校(六本木)がそれぞれの校種の子どもの発達の特性を理解し、スムーズな接続を図るため、交流活動の充実を図ります。互いの保育、授業を教員同士が参観して、実態を理解します。幼児期の「話す・聞く」指導に重点をおき、今年度は麻布幼稚園で保育を公開することになっています。